

にのみや
二宮 けいさく
敬作(1804~1862)



蘭学者。宇和郡磯崎浦(現、八幡浜市)出身。文政2(1819)年、長崎へ赴き、通詞・吉雄権之助や美馬順三に師事し、文政6(1823)年以降6年間、シーボルトに師事して信認を受け、シーボルトの江戸(現、東京都)参観のときには助手として随行した。後に、シーボルト事件に連座し、江戸構長崎弘(江戸立入禁止、長崎退去)となる。帰郷後、主に宇和郡卯之町(現、西予市)で開業医として活躍し、シーボルトの娘・楠本イネの養育もした。宇和島藩主・伊達宗城に重用されたほか、高野長英や村田蔵六(大村益次郎)とも交流があった。

略歴

- | | |
|-------------------|---|
| 文化元(1804)年5月10日 | 宇和郡磯崎浦に生まれる。 |
| 文政2(1819)年3月 | 長崎に遊学 |
| 文政6(1823)年 | シーボルト来日、入門 |
| 文政9(1826)年 | オランダ商館長の江戸参府に同行 |
| 文政11(1828)年12月26日 | シーボルト事件に連座し、町預となる。 |
| 文政13(1830)年閏3月25日 | 江戸構長崎弘の刑を受け、帰郷の途に就く。 |
| 天保2(1831)年 | 喜多郡上須戒村(現、大洲市)で医師として開業 |
| 天保4(1833)年 | 宇和郡卯之町で医師として開業 |
| 安政元(1854)年 | 宇和島藩の軍艦建造調査団とともに長崎を再訪。
帰郷に際し、楠本イネを同道し、産科を中心に教授 |
| 安政2(1855)年1月17日 | 宇和島藩より御徒格に列せられる。 |
| 安政3(1856)年3月 | 三瀬諸淵・楠本イネらを連れ、三度長崎に赴く。 |
| 安政6(1859)年 | シーボルト再来日。三瀬諸淵を入門させる。 |
| 文久2(1862)年3月12日 | 長崎において病のため、59歳で永眠。墓所は長崎県長崎市寺町の皓臺寺
(肖像画：宇和先哲記念館蔵) |

〈関連図書〉

- ・長井音次郎『愛媛県先哲偉人叢書第2巻二宮敬作・三瀬諸淵』愛媛県教育会 1934年
- ・板沢武雄『シーボルト』吉川弘文館 1960年
- ・呉秀三『シーボルト先生その生涯及び功業』平凡社(東洋文庫117) 1968年
- ・影山昇『伊子の蘭学』青葉図書 1975年
- ・二宮直一『二宮敬作とその周辺』保内町教育委員会 1982年
- ・影山昇『愛媛県の教育史』思文閣出版 1983年
- ・三好綾子『文化の里 二宮敬作の研究』三好綾子 1983年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第13巻 二宮敬作・三瀬諸淵・矢野玄道』
愛媛県教育会 1986年
- ・宇和郷土文化保存会人物伝編纂委員会『宇和の人物伝』宇和町教育委員会・宇和郷土文化保存会 1993年
- ・『平成9年企画展 伊子の蘭学』愛媛県歴史文化博物館 1997年
- ・宇和島市医師会医学史編集委員会『宇和島藩医学史』宇和島市医師会 1998年
- ・『県民メモリアルホール人物探訪 第3集』愛媛県生涯学習センター 1999年
- ・門多正志『二宮敬作と関係人物』宇和町教育委員会 2001年

〈ゆかりのある場所〉…(P266~267, 12~14)

〈関連施設〉…宇和先哲記念館

〒797-0015 愛媛県西予市宇和町卯之町4丁目327番地 TEL: 0894-62-6700